

(登録調書)(案)

1. 石坂昌孝屋敷跡

名 称：石坂昌孝屋敷跡（いしざかまさたかやしきあと）

指定種別：町田市登録旧跡

所 在 地：町田ぼたん園内（町田市野津田町 2293 番地 1 号～3 号）

所 有 者：町田市

管 理 者：町田市都市づくり部公園緑地課、
NEST Machida 共同事業体（指定管理者）

法 量：合計 1,817 m²
野津田町 2293 番地 1 号 892 m²
野津田町 2293 番地 2 号 826 m²
野津田町 2293 番地 3 号 99 m²

経 緯：町田市を代表する民権家、政治家である石坂昌孝は、1841（天保 12）年に多摩郡野津田村（現町田市野津田町）に生まれ、生後すぐに同村の石坂昌吉の養子となって本屋敷地へ移り住んだ。1878（明治 11）年の記録では芝生の西洋風庭園になっており、横浜から文明開化の影響を受けたと考えられる。中央政界で活動するため 1880（明治 13）年以降、東京区部にも住宅を構えたが、衆議院議員として自身の選挙区である旧神奈川県に所在した同地は引き続き保持され、東京区部と地元を行き来し活動する生活を送った。同地には 1889（明治 22）年、石坂が衆議院選挙への出馬資金として抵当に入れられ借金をしたという政治活動の一端を知る経緯もある。1907（明治 40）年、石坂の死去により子の石坂公歴と渡瀬登志が相続し、その後、子孫により町田市に寄贈され、現在は町田市ぼたん園内に含まれている。

現 況：屋敷地として整地された平地で、現在は芝生が養生され一部にツツジ・フジ等が、東側隣接地との境にはフェンスが設けられ内側にツバキ等が植樹されている。石坂昌孝没後の 1918（大正 7）年 2 月に 3 筆に分筆され、中央の 2293 番地 3 号が石坂昌孝の墓への参道として利用されたと思われるが、その痕跡は残っていない。

登録理由：石坂昌孝は、幕末から明治初期にかけて地域行政の要職を務め、1879（明治 12）年に神奈川県会初代議長に就任した。1881（明治 14）年に政治結社融貫社を組織し、翌年に自由党に入党すると旧神奈川県の自由民権運動を代表する指導者として活躍し、1890（明治 23）年の第一回衆議院議員選挙で当選以降、4 回連続で当選し、計 6 年間衆議院議員を務めた。1896（明治 29）年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引

退、1907（明治40）年に亡くなる。没後、現在の八王子市や海老名市に石阪を顕彰する碑が建てられるなどの経緯からも、旧神奈川県を代表する民権家、政治家といえる。

本屋敷地は、石阪が生誕直後から居住し、東京区部にも住居を構えるようになった1880（明治13）年以降も政治活動の拠点として引き続き大きな役割を果たした。また、同地は、文学評論家、詩人として著名な北村透谷が後に妻となる石阪の長女美那と出会った場所である。石阪の長女美那は、自由民権運動から大きな影響を受けた北村と、激しい恋愛の末、両親の反対を押し切って結婚し、このことを記した評論「厭世詩家と女性」は近代的な恋愛観の表明として当時の青年層へ大きな影響を与えた。現在、屋敷地跡付近に「自由民権の碑 透谷・美那子出会いの地」が建てられている。

同地は、日本の近代立憲政治の基礎をつくる上で大きな貢献をした民権家、政治家である石阪昌孝が生誕直後から居住し、晩年まで政治活動の拠点とした、その思想形成や歴史的な役割を知る上で象徴的な場所といえる。

また、石阪の長女美那と北村透谷がこの地で出会い、その後恋愛結婚へと至ったことから新しい恋愛観を世に問う契機となった場所でもある。以上のことから由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために必要なものとして町田市登録旧跡にふさわしい。



町田ぼたん園憩いの広場



石阪昌孝屋敷（古川家所蔵）

2. 石阪昌孝墓

名 称：石阪昌孝墓（いしざかまさたかはか）

指定種別：町田市登録旧跡

所 在 地：町田市野津田町 2268 番地 2 号

土地所有者（登記）：北村ミナ(美那)

＊1942（昭和 17）年 4 月 10 日没

時 期：1907（明治 40）年 5 月（推定）

法 量：墓 石 縦 190～200 cm×横 185～210 cm×高約 271.5 cm

外柵石柱 縦約 18 cm×横約 18 cm×高約 100 cm

（ただし、右後上部 18 cm程度の箇所折）

外柵範囲 縦約 300 cm×横約 310 cm

墓地面積：99 m²

墓 碑 銘：正 面 「正五位石阪昌孝之墓」

右側面 「雄鎮院殿洪範道昌大居士 靈位
淑範院蓮體妙瑩大姉」

左側面 「雄 明治四十年一月十三日歿
淑 大正二年三月六日歿」

経 緯：現町田市域を代表する民権家、政治家である石阪昌孝は 1907(明治 40)年 1 月 13 日に牛込区北町の自宅で死去し、同所で 15 日に葬儀が行われた。その後、故郷である鶴川村野津田（現町田市野津田町）への埋骨という石阪の遺言により同年 5 月、華厳院で埋骨式法要が行われた。この際に当該地に埋葬され墓が建立されたと推測される。その後、墓を含む周辺の土地は遺族によって売却されたが 1913（大正 2）年 3 月に石阪の長女美那が再購入し分筆、5 月に墳墓地として登記変更され現在に至っている。

現 況：町田ぼたん園フェンスで寸断されているが石阪昌孝屋敷跡地から墓地まで参道が整備されている。墓地は野津田町内会が年 1 回清掃活動を行っており、墓地敷地内には町田市が建てた説明板が建っている。墓石は竿石の下に上台・中台・芝台があり最下段は石垣をコンクリートで固めた台となっており、石垣台上に花立・水鉢が置かれているが、同時期に作成されたものと思われる。墓石の周囲は四本の石柱で囲まれ、各石柱には石柱間を鎖でつないでいた形跡が残る（石柱一本（右後）は鎖を打ち込んだ穴部分から折れている。また、鎖は全て脊柱からは切れ、一部残っているものは石柱に卒塔婆を固定するために利用されている）。正面には、1990（平成 2）年に寄贈された香台がある。

登録理由：石阪昌孝は、幕末から明治初期にかけて地域行政の要職を務

め、1879(明治12)年に神奈川県会初代議長に就任した。1881(明治14)年に政治結社融貫社を組織し、翌年に自由党に入党すると旧神奈川県の自由民権運動を代表する指導者として活躍し、1890(明治23)年の第一回衆議院議員選挙で当選以降、4回連続で当選し、計6年間衆議院議員を務めた。1896(明治29)年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引退、1907(明治40)年に亡くなる。没後、現在の八王子市や海老名市に石阪を顕彰する碑が建てられるなどの経緯からも、旧神奈川県を代表する民権家・政治家といえる。

地元である野津田では「昌孝(ショウコウ)さん」との愛称で呼ばれ、「野津田の自慢はなんだんべえ、石阪昌孝(ショウコウ)あった事(出した事)…」という唄が現在に伝えられており、地域の誇りとして人々の記憶に留められている。

墓は石阪本人の遺言により地元である野津田に建てられ、現在まで野津田青年会「凌霜会」や野津田町内会によって維持管理されてきた。石阪の歴史的な役割を知る上で象徴的な場所であるだけでなく、その遺徳をしのぶ地域の人々によって現在まで管理されてきた経緯は、石阪の人間性、地域社会との関係性を知る上でも貴重な事例といえよう。以上のことから、由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために必要なものとして町田市登録旧跡にふさわしい。

